

暁あかつきにに發はつす

月つき田た蒙もう齋さい

残ざん月げつのの滴てき露ろう人ひとのの袂たもとをを湿うるす

暁ぎやう風ふう髪はつ友ともをを吹ふいていて秋しゅう冷れいをを覚おぼえ

忽たちちま驚おどろくく大だい蛇いじや路の当みち横あはたよこわわるるを

劍けん抜ぬいていて斬きららんとんと欲ほつすすればれば老ろう松しやうのの影かげ

【作者】月田蒙齋(一八〇七〜一八六六年)(文化四〜慶応二年)時習館訓導、儒学者、詩人。名は強、字は伯恕。通称右門のち鉄太郎と改める。

蒙齋は号。肥後(熊本)現荒尾市生る。父祖は野原八幡宮司。幼時より頭脳明晰、貧困により学問が思うようにできなかった。田代是宗の塾に入り、ついで辛島塩井に從学。のち京都の千手旭山に学び山崎闇齋派の実理の学を納める。旭山に從つて北陸及び江戸に遊ぶ。天保四年(二八三三)、九州に歸つて島原に滞在した後、故郷に歸つた。天保十二年(一八四一)藩命により郷学師となり、その後、時習館訓導に抜擢され、門下生は述べ数百人に及んだ。早くから詩名高く終生程朱学の究明に力を注いだ。詩集、随筆の著書多し。慶応二年(一八六六)熊本に於いて死亡。唐人町常在院に埋葬され、後に荒尾の月田墓地に改葬された。

【語釈】\*残月：あけがたまで残っている月 \*暁風：明け方に吹く風。 \*秋冷：秋の冷やかさ。

【通釈】月がまだ西の空ある早朝に出発すれば、したたる露が袂をしっかりと濡らしている。明け方の風が髪を吹いて、ひんやりとした秋の気配が感ぜられる。ふと見れば、巨大な蛇が行くその道を遮るように横たわっているではないか、すわつと刀を抜いて躍りかかって退治しようとしたが、よく見れば、それは年を経た松の影であった。